

■桑原まちづくり協議会

私たちの町でこの事業が始まったのは今から6年前のことです。準備会では「どんな町に住みたいですか?」「住みやすい町にするには何が必要だと思いますか?」等意見を出し学び合いながら皆でイメージしていったのです。

■保健福祉部

多くの部がある中で保健福祉部の部長になりました。福祉に熱い思いのある部員さんたちの声掛けもあり「この指とまれ方式」で福祉部員は増えていきました。といっても部員は女性が大半です。まちづくり協議会では「町内会や公民館もあるのに」という声もありましたが、保健福祉部の女性陣は町内会を超えたまちづくり協議会にとっても魅力を感じていました。介護の悩みを抱える人、子どものこと、障がいのこと、隣近所の関わり等、いろんな問題を抱えながら集まってくる部員さんは真剣ですが楽しそうなのです。最初は、意見交換会に始まった保健福祉部ですが、次第に意見を実現しようとして一緒に食べよう会「車椅子で歩こう会」



おーぱんサロン

等の活動をしてみました。

■地域のマップを作ろう!

さて、平成21年度は地元にある東雲短期大学と協働して、地域のマップ作りと福祉アンケート調査をすることになりました。本当にできるのだろうか。白紙の状態から地図を作るのです。

『すずの会』の鈴木さんに『私たちの地域

は私たちの手で』という題で講演していただきました。地域の活性化や「自分たちで作る町」という視点には大変刺激を受けたのです。

そのエネルギーをもとに福祉マップを作るにあたり、地域住民に広報して「地域を歩こう会」を開催することにしました。参加者と歩いて地図に表記したいポイントをそれぞれ班でピックアップ。学生さんや地元小学校の先生も参加してくれました。かなり多くの気づきや提案がありました。

地図の基は何にしよう。市役所にある白地図は随分古いもので新しい道もなく使えうのは無理だと断念しました。予算内で地図を作るために知恵をしぼり、人脈を使つてようやく基になる地図を見つけたときは大喜びしました。

次は地図に載せる病院や介護施設、銀行、スーパーなど生活に欠かせない情報を正しく掲載するためにはそれらの調査が必要になりました。広い地域を調査するのは部員数人だけでは



支所に貼った拡大版地図

特集①

女性の視点で捉える地域福祉

桑原地区まちづくり協議会 保健福祉部 部長 今井 典子 (松山市)





車いすで歩こう会

無理です。そんな時同じまちづくり協議会の安全安心部さんから協力の話や地域の企業である『四国交通』『愛媛銀行』に話したら調査に参加いただけることになりました。多くの方に関わっていただきながら地図の下書きが出来ていきました。

さらに『いきいきサロン』の場所や連絡先、緊急時の電話番号等も掲載できて、本当に第1号としては未知の作業で大変苦労したのと同時に色んな方の温かい心のこもった素晴らしい地図が完成しました。

福祉アンケートも東雲短期大学で調査・集計し『桑原地域の福祉に関する意識調査』が完成。福祉マップの完成・アンケートの集計結果と合わせて経過発表会を開催して

現在の活動状況

福祉マップを全戸配布しました。

また、その後数か所の町内会にお伺いし、アンケート結果やマップについて意見交換の場を作っていただきました。その際、地図に掲載するポイントの提案や参加者から「次回は協力するよ」等意見が出ました。

数か月に1回集まって、「おーぶんサロン」をしています。リサイクル品の持ちやりや、おもちゃや絵本の物々交換、喫茶コーナー、楽器演奏、包括支援センターによる介護相談などを、毎回『まちづくり通信』で公表して開催しています。先日地域の方が50人程集まっていました。だんだん増えてきています。

「とにかくやってみよう」「続けよう」と頑



地図作成のための町歩き



町内会での座談会

張っています。自分たちの足で歩きながら協力者を広げていく。「未来に向かって、子どもが住みやすい町にしたい」「障がいがあっても住みやすい町に」

副部長以外はすべて女性だった保健福祉部ですが、もう一人の女性副部長の草の根のような働きかけもあり地域の男性の協力者も増えていて嬉しいです。今後もコツコツ『まちづくり』を続けていくことが私たちにできることだと思っています。